

(添付資料) 「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」

2025年4月

科目	単位数	時間	区分	職種・職歴等	授業科目内容
看護物理学	1	30	非常勤講師	臨床検査技師 教授	病院臨床検査技師の経験を基盤に、医療、看護の場面で関わるものを測る様々な単位の種類と意味、基礎看護技術の物理学的な原理及び医療機器の原理について理解し看護における科学的なものの見方を解説する。
解剖生理学Ⅰ	1	15	非常勤講師	医師	医師の臨床経験を基盤に、生命現象の機序を学び、人体の構造と機能を解説する。
病理学総論	1	15	非常勤講師	医師	医師の臨床経験を基盤に、病気の原因と病理学的な変化について深め疾病の特徴や進行の過程を解説する。
臨床薬理学	1	30	非常勤講師	薬剤師	病院薬剤師の実務経験を基に、薬の効き方と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法と、薬理学全般における基礎知識、疾患の系統別に作用する薬物についての解説と、薬物医療事故の事例から看護師の役割を教育する。
病態と治療Ⅰ	1	30	非常勤講師	医師	病院医師の臨床経験を基盤に、疾患の病態、治療検査を理解し、その疾患をもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を解説する。
生活援助技術Ⅰ	1	30	専任教員	看護師	人間にとっての食事・栄養・排泄の意義を理解し、看護技術に必要な知識・技術・態度を身に付ける。
看護展開技術	1	30	専任教員	看護師	病院看護師の経験を基盤に、対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的、論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を教育する。
リハビリテーション	1	15	非常勤講師	理学療法士	回復期病棟セラピストの臨床経験を基に、リハビリテーションの意義と方法について学びや、身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を解説する。
フィジカルアセスメント技術	1	30	専任教員	看護師	病院看護師として実践してきた経験を基に、ヘルスアセスメントに必要とされる基礎的知識・技術・態度を教育する。
合計	9	225			

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
看護物理学	1	30	1年前期	政野 仁（○）
科目のねらい ものを測る様々な単位の種類と意味、基礎看護技術の物理学的な原理および医療機器の原理について理解し看護における科学的ものの見方を涵養する				
教科書：なし 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 ものには全て単位がありその意味・考え方について解説します。さらに様々な医療機器の原理および使用上の注意について解説します。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	重さ・容積・濃度の単位	2	単位の接頭語および単位の換算について	講義 演習
2	単位の換算演習	2	単位の換算	
3	体位変換に必要な物理学	2	体位変換の基礎理論について 作用と反作用	
4	トルクの考え方と演習	2	体位変換に役立つトルクの計算について	
5	温度の定義と検温の意義	2	体熱の産生と喪失のバランスについて 熱の移動	
6	冷電法温電法の物理学	2	温度・比熱	
7	看護に必要な電気理論	2	電気理論について	
8	大気圧の定義と血圧の単位	2	圧力の様々な定義と単位、血圧測定の注意事項	
9	酸素ポンベの物理学	2	気体の基礎的法則について	
10	点滴の基礎理論	2	位置エネルギーと運動エネルギーについて	
11	浸透圧・血液透析の原理	2	浸透圧の考え方・計算方法・単位について	
12	酸・アルカリ・pH	2	酸・アルカリ・水素イオン濃度について	
13	重量濃度・モル濃度・換算	2	溶液の各種濃度の表現方法について	
14	内視鏡・超音波の原理	2	内視鏡・超音波の原理について	
15	電磁波の種類と応用	2	電磁波の種類と医療への応用について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
解剖生理学 I	1	15	1 年前期	佐藤 惇(○)
科目のねらい 身体の構造と機能の概論を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1 医学書院 参考文献 : らくらく学べて、臨床に生かせる 解剖生理ポイントブック [第2版] 照林社				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする				
授業の進め方 POWERPOINT と DVD(ビデオ)を用いてわかりやすい授業を心がけます 項目ごとに資料を作成し配布します				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	人体の構造と機能、人体とは	1	・人体の構造と機能	講義
2	人体の細胞、人体の組織	2	・細胞の構造と機能 ・エネルギーの生成、栄養	講義
3	構造と機能からみた人体	2	・筋、消化吸収	講義
4	構造と機能からみた人体	2	・呼吸	講義
5	構造と機能からみた人体	2	・体液血液、免疫	講義
6	構造と機能からみた人体	2	・循環、血圧、体温	講義
7	構造と機能からみた人体	2	・排泄、生殖、内分泌	講義
8	構造と機能からみた人体	2	・脳、神経、感覚器	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
病理学総論	1	15	1年前期	佐藤 惇（○）
科目のねらい 病気の原因と病理学的な変化について学び疾病の特徴や進行の過程を理解する				
教科書： 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進 1 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100% 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書に準じた内容について、教科書はもとより理解の助けになる参考データ 図表をまとめたパワーポイントを使用し、双方向的な授業を実施します 理解度の チェックのため単元ごとに必ず質問し確認します				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	病理学で学ぶこと	1	病気の原因	講義
2	細胞・組織の障害と修復	2	細胞損傷と適応、組織の修復と創傷治癒	
3	循環障害	2	循環血液量の異常と閉塞性の障害について	
4	炎症と免疫・感染症	2	炎症とアレルギー、免疫不全および自己免疫疾患について	
5	代謝障害	2	脂質・たんぱく質・糖質の各物質代謝異常について	
6	老化と死	2	老化のメカニズム	
7	先天障害と遺伝子異常	2	先天異常の種類と新生児 マススクリーニングについて	
8	腫 瘍	2	腫瘍の定義分類、発生病理および診断と治療について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
臨床薬理学	1	30	1年前期	山崎晃憲（○）
科目のねらい 薬の効きかたと理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法を学ぶ 薬理学全般における基礎的知識と、疾患の系統別に作用する薬物について学ぶ 薬物医療事故の事例から看護師の役割を学び深める				
教科書： 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 3 薬理学第15版 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100% 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 総論では、薬剤師の役割と業務内容やチーム医療における薬剤師の役割について解説する。 また、医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、コンプライアンスの重要性を説明する。各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説する。各項目に生理学、病態、生理学、薬理学、微生物学、栄養学などの関連分野と組み合わせながら臨床に即した授業を進める。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	薬理学総論	2	1. 薬物治療と看護 2. 薬理学とは何か 3. チーム医療における薬物療法と看護師の役割	講義
2	薬理学の基礎知識	2	1. 薬が作用するしくみ(薬力学) 2. 薬の体内動態(薬物動態学) 3. 薬物相互作用 4. 薬物の個人差に影響する因子 5. 薬物使用の有益性と危険性 6. 薬と法律	講義
3	抗感染症薬	2	1. 感染症治療に関する基礎事項 2. 抗菌薬 3. 抗真菌薬・抗ウイルス薬 4. 感染症治療における問題点	講義
4	抗がん薬	2	1. がん治療に関する基礎事項 2. 抗がん薬の種類	講義
5	免疫治療薬	2	1. 免疫系の基礎知識 2. 免疫抑制剤 3. 免疫増強薬・予防接種薬	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
6	抗アレルギー薬・ 抗炎症薬	2	1. 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2. 抗炎症薬 3. 抗リウマチ薬	講義
7	末梢での神経活動に 作用する薬物	2	1. 神経系による情報伝達と薬物 2. 交感神経作用薬 3. 副交感神経作用薬 4. 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義
8 9	中枢神経系に作用する 薬物	4	1. 中枢神経系のはたらきと薬物 2. 全身麻酔薬 3. 催眠薬・抗不安薬 4. 抗精神病薬 5. 抗うつ薬・気分安定薬 6. パーキンソン症候群治療薬 7. 抗てんかん薬 8. 麻薬性鎮痛剤 9. 片頭痛治療薬	講義
10 11	循環器系に作用する 薬物	4	1. 降圧薬 2. 狭心症治療薬 3. 心不全治療薬 4. 抗不整脈薬 5. 利尿剤 6. 脂質異常症治療薬 7. 血液凝固系・線溶系に作用する薬物 8. 血液に作用する薬物	講義
12 13	呼吸器・消化器・生殖器 泌尿器系に作用する薬 物	4	1. 呼吸器系に作用する薬物 2. 消化器系に作用する薬物 3. 生殖器系・泌尿器系に作用する薬物	講義
14	物質代謝に作用する 薬物	2	1. ホルモンとホルモン拮抗薬 2. 治療薬としてのビタミン	講義
15	皮膚科用薬・点眼薬 救急の際に使用される 薬物 漢方薬	2	1. 皮膚に使用する薬物 2. 眼科用薬 3. 救急に用いられる薬物 4. 急性中毒に対する薬物 5. 漢方医学の基礎知識・各論 6. 消毒薬	講義
単位修得試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
病態と治療Ⅰ	1	30	1年前期	後山恒範(○)中嶋俊雄(○)賀来亨(○)
科目のねらい 疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 100%(後山 40% 中嶋 30% 賀来 30%) 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 解剖生理学の確認をしながら、主たる臨床で関わる代表疾患を中心に講義をします				
単元：運動器系			担当講師：後山 恒範	
単元：循環器系			担当講師：中嶋 俊雄	
単元：呼吸器系			担当講師：賀来 亨	

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	運動器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 運動器の構造と機能 ・骨、関節、神経と筋肉、腱と靭帯 2. 症状とその病態生理 ・疼痛、形態・関節の異常、神経障害 3. 診断・検査と治療・処置 ・診察・診断の流れ、画像検査、保存療法、理学療法、手術療法、義肢と装具 4. 運動器疾患の理解 ・外傷性・内因性の運動器疾患	講義
6 7 8	循環器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 循環器の構造と機能 ・心臓、血管、自律神経、液性因子 2. 症状とその病態生理 ・胸痛、呼吸困難、浮腫、失神、ショック 3. 検査と治療 ・診察と診断の流れ、心電図、心エコー 心臓カテーテル、血行動態モニタリング	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
9 10	循環器疾患の病態と 検査治療処置		心臓核医学検査 ・内科的治療、外科的治療 4. 循環器疾患の理解 ・虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症 大動脈系疾患	講義
11 12 13 14 15	呼吸器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 呼吸器の構造と機能 ・呼吸器の構造、呼吸の生理 2. 症状とその病態生理 ・自覚症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難） ・他覚症状（チアノーゼ、ばち指、呼吸の異常） 3. 検査と治療・処置 ・診察と診断の流れ、喀痰検査、内視鏡検査、 生検、呼吸機能検査 ・吸入・酸素療法、呼吸理学療法、気道確保 ・胸腔ドレナージ ・在宅酸素療法（HOT） 4. 呼吸器疾患の理解 ・感染症、間質性肺疾患、気道疾患 肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
生活援助技術Ⅰ	1	30	1年前期	坂本容子(○) 中村恵子(○)
科目目的 : 人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護技術に必要な知識・技術・態度を身につける 目標 : 1. 食事・栄養、排泄の意義と基礎的な知識・技術・態度について理解する 2. 対象の栄養状態、排泄状態のアセスメントの方法を理解する 3. 食事・栄養、排泄に関わる援助方法を習得する 4. 対象を尊重した態度で援助技術が実践できる				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 フロレンス・ナイтингエール 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 参考文献 : 看護技術プラクティス 第4版 学研				
評価方法 : 筆記試験100% (坂本 40%、小テスト 10%) (中村 40%、小テスト 10%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 1. 各教科書、学内実習要項、事前に配布された資料は忘れずに毎回準備してください 2. 事前課題で取り組んだ内容をもとに、グループワーク、アセスメントへとつなげていく学習になります。個人で事前課題に取り組み、グループワークでは個々人の相違を見つけるためにも積極的に意見交換をしましょう 3. 食事・栄養、排泄に関する基礎知識が学べたら、次は実際に食事介助・口腔ケア、排泄援助の演習を行います 4. 学内実習後は援助者として、援助された者として感じたことを十分に振り返って、食事援助技術・排泄援助技術として大切にしたいことのまとめ学習をします				
単元：食事援助技術			担当講師：坂本容子	
単元：排泄援助技術			担当講師：中村恵子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	食事援助の基礎知識	人間にとって食事・栄養とは何かを理解する	2	1. 食事・栄養の意義 1) 身体的(生理的)・精神的・社会的な意義 ・グループワークで事前課題をもとに自分たちにとって、食事・栄養の意義を3側面から考える	講義 共同学習 グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2. 飲食の基本的欲求が充足された状態 1)ヘンダーソンの基本的欲求 2)マズローの欲求の階層でのとらえ 3)「適切に飲食できる」という基本的欲求が充足された状態とは ・「必要な栄養がとれている」「楽しく食べられ満足感がある」が成立する条件を事前課題を活用し考えてみる ※ワークシート「栄養・食事に関するアセスメント」配布	
2		栄養・食事に関するアセスメントの方法を理解する	2	1.食事・栄養摂取のしくみ 2.対象の栄養・食事に関するアセスメント 1)食欲 2)摂食行動 3)摂食嚥下能力 4)栄養状態 5)水分・電解質バランス (1)10 分間の小テスト (10 点) (2)事前に調べ学習をしたアセスメントの視点をを用いて、事例の栄養・食事に関する状態を判断してみましょう 3.医療施設で提供される食事	講義 反転授業
3	食事援助の実際	安全で快適な食行動が取れるよう、食事援助の基礎知識を学ぶ	2	1.食事援助の基礎知識 1)食事摂取の介助 2)食欲不振の対象の援助 3)視覚障害のある対象の援助 4)体位・体動制限のある対象の援助 2.口腔ケアの基礎知識 ※援助計画書「食事介助・口腔ケア」作成	講義 DVD視聴 「食事介助」
4		食事介助・口腔ケアの具体的方法を習得する 対象を尊重した食事援助技術の実践が考えられる	2	2. 援助の実際 1)学内実習 「患者の状態に応じた食事介助と口腔ケア」 ファーラー位での食事介助(経口摂取)と口腔ケア(歯みがき・含嗽)の実施 (1)エキスパートグループでの学習 エキスパート A: 経口摂取の援助 エキスパート B: 口腔ケア (2)エキスパートグループ代表者によるデモンストレーション	ジグソー学習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)他者に食べさせてもらう体験を通して、 援助を受ける対象を身体的・精神的側面 から考える (4)教員によるデモンストレーション	
5 6			4	1.技術評価 2.学内実習後の振り返り・まとめ 1)グループリフレクション 援助者・模擬患者役の学びから、対象へ の配慮・尊重を保つにはどのように行動 したらよいかを話しあう	
7	非経口的 栄養摂取 の援助	経口的に栄養摂 取が行いにくい 場合の基礎知識 を学ぶ 非経口栄養摂取 の概略について 理解する	2	1.摂食・嚥下障害のある対象への援助 1) 摂食・嚥下訓練援助の基礎知識 2.非経口的栄養摂取方法 1)経管栄養 援助の基礎知識(種類と留意点) 2)中心静脈栄養 援助の基礎知識(種類と留意点)	講義 DVD 視聴 「経管栄養」

事前課題

1. 身体的・精神的・社会的側面から見た食事の意義・必要性を、あなたの体験をもとに述べてください。
2. フォーレンス・ナインゲール 看護覚え書 「六章 食事」「七章 食事の選択」を読み、看護の対象である病人の何を注意深く観察するのか、食べられるよう看護師はどのようなことに創意工夫に努めなければいけないか、理解したことをまとめましょう。
3. ガーゼニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの「2.患者の飲食を助ける」を読み、「食べさせてもらうこと」「食べさせること」の中にどのような心理的要因があるのか、理解したことをまとめましょう。

提出期日 以上の1~3の内容をA4用紙にまとめ提出する。講義開始3日前 朝9:00 まで

事後課題 リフレクションシート記載

提出期日 学内実習 翌日

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9	自然排尿 および自然排便の 基礎知識	排泄の意義を理解する 排泄のメカニズムが理解できる 状態に応じた援助を決定するためのアセスメントの方法を理解する	4	1.自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義(身体・心理・社会的な意味) 2.排泄に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態 「排泄行動を実行できる能力とはどのような条件が必要か」自分自身の排泄行動から考える 4.排泄器官の機能と排泄メカニズム 1)排尿 2)排便 5.観察とアセスメント(基本的欲求の未充足状態 正常な排泄を阻害する要因) 1)排尿のアセスメント 2)排便のアセスメント 3)移動動作のアセスメント 4)心理・社会的状態のアセスメント 6.ワークシート配布	講義 共同学習 発表 講義
10	排泄援助 の実際	自然排尿・排便 援助の基礎的知識を学ぶ 排泄介助の具体的方法を習得する	2	1.自然排尿および自然排便援助の基礎知識 1) 10分間の小テスト (単位修得認定試験:5点分) 2)ポータブルトイレ・トイレでの排泄援助 3)床上排泄援助 4)おむつを用いた排泄援助	講義 反転授業 DVD視聴 「排尿・排便の援助」
11 12		対象の尊厳を保った援助技術の実践が考えられる	4	1.ジグソー学習・タスクトレーニング 1) 専門家育成 (1)尿器(男性用・女性用) (2)便器(和式・洋式) 2) チーム練習 (1)看護技術カードに基づいた技術練習	学内実習 ジグソー学習
13 14			4	2.援助の実際:床上での排泄援助 1)ベッド上での排尿・排泄の手順と留意点 2)排泄状況のアセスメント 2.学内実習後の振り返り・まとめ (1) グループリフレクション 対象への配慮や尊厳を保つためにはどのような行動したらよいか、援助者・模擬患者役から学んだことをもとに振り返る	学内実習 共同学習 発表

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
15	排泄を促す援助	排便を促す援助の基礎知識を学ぶ 導尿についての概要を知る ストーマケアについての概要を知る	2	1. 排便を促す援助の基礎知識 1) 10 分間の小テスト (単位修得認定試験：5 点分) 2) 便秘のアセスメントと看護ケア 3) 浣腸の適応・留意点 4) 摘便の適応・留意点 2. 導尿 1) 一時的導尿の適応・留意点 2) 持続的導尿の適応・留意点 3. ストーマケア 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 反転授業 DVD視聴 「浣腸・摘便」 DVD視聴 「導尿・膀胱留置カテーテル」
単位修得認定試験			1	筆記試験	

- 事前課題 1. フローレンス・ナイチンゲール著 看護覚え書きの「I 換気と加温」を読み、看護師として排泄物を取り扱う時の注意点とは何かを考え記述してください。
2. ヴァージニア・ヘンダーソン 「3. 患者の排泄を助ける」を読み、正常な排泄ができる要因を解釈し自分の言葉で文章にまとめ記述してください。
3. 夜間、自宅のベッドに寝ていて、尿意を感じトイレまで行き、排泄を済ませ再びベッドに戻るまでの経過をできるだけ詳細に抽出してください。行動レベルでどのような能力を使用しているのか、どのようなことを考えて行動しているのかをひとつとも行動がもれないよう順序だてて記述してください。
- (排泄行動が自立で行われるためには、排泄に必要な動作を不足なく書き出す) 排泄行動を実行できる能力を自分自身の排泄行動から確認します。

講義開始 3 日前の朝 9 時までに 1～3 の内容を A 4 用紙にまとめ提出

- 事後課題 1. リフレクションシート記載

学内実習終了 翌日

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
看護展開技術	1	30	1年 後期	齊藤まどか（○）
科目目的：対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的・論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ 目標：1. 看護実践における看護過程展開の意義・目的を理解する 2. 看護過程の構成要素とそのプロセス（方法）を理解する 3. ヘンダーソン看護論の定義・概念を理解する 4. ヘンダーソン看護論に基づき対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な思考過程を展開する				
教科書：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 看護の基本となるもの V.ヘンダーソン著 湯楨ます他訳 日本看護協会出版社 秋葉公子著 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（第4版）ヌーベルヒロカワ 参考文献：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 焼山和憲 日総研 看護アセスメント力鍛え方&教え方 内田陽子 日総研 わかりやすい看護過程 黒田裕子 照林社 看護がみえる vol4 看護過程の展開 メディックメディア				
評価方法：筆記試験60点 課題学習40点 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 予習・復習には上記の教科書・参考書に限らず、関連図書・資料を活用しましょう 3. 看護学概論・共通援助技術・生活援助技術で学習した「ヘンダーソン」に関する学習内容をポートフォリオにして活用していきます 4. 看護実践の要となる看護の思考過程を、紙上事例を用いて解説しながら段階的に学んでいく授業になりますので、体調を整えて欠席しないようにしましょう 5. 協同学習・グループワークを通して不明な点については積極的・主体的に質問し、自身の課題解決に取り組んで下さい。				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1～4	看護過程の概念・構成要素・プロセス	看護過程の意義・目的を理解する 看護実践における看護過程の位置づけを理解する 看護過程と看護理論の関係性を理解する アセスメントの意義・目的を理解する 情報収集の方法を理解する	4	1.看護過程とは 1)看護過程の意義・目的 2)看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 看護理論の活用 (4) 倫理的配慮と価値判断 2.看護過程の6つの構成要素 1)アセスメント (1) アセスメントの定義・目的 (2) 情報収集の方法 ①アセスメントの枠組み ②情報源 ③情報収集の方法・手段	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		情報の分析方法を理解する		④情報収集の時期 ⑤情報の種類・分類 (3) 情報分析の方法 ①分析 ②推測 ③解釈 ④判断 ⑤選択 ⑥統合 3. 看護過程展開に必要な学習ノートの作成 a. 発達段階・発達課題 b. 疾患に関する解剖生理・病態生理 c. 変形性膝関節症・人工膝関節全置換術の看護 d. 回復期の看護	講義
		全体像（関連図）を把握する必要性和方法を理解する	2	2. 看護過程の6つの構成要素 2) 全体像の把握（関連図）	講義
		看護課題を明確にする必要性和方法を理解する 優先順位決定の方法を理解する 看護計画を立案する必要性和方法を理解する 実施・評価の視点とプロセスを理解する	2	3) 看護課題の明確化（看護診断） (1) 看護診断の定義・目的 (2) 看護診断ラベル（NANDA-I） (3) 看護課題の種類 ①看護が取り扱う課題 ②共同問題 ③顕在的課題と潜在的課題 ④ウェルネス型の看護課題 (4) 看護課題の表記方法 (5) 優先順位の決定方法 4) 看護計画立案 (1) 計画立案の定義・目的 (2) 目標の設定 ①目標の表記方法 ②RUMBAの法則 (3) 看護介入方法（具体策） ①O-P、T-P、E-P ②5W1H (4) クリティカルパス 5) 実施 (1) 実施の定義・目的 (2) 実施に必要な技術 (3) 実施のプロセス (4) 記録の方法 6) 評価 (1) 評価の定義・目的 (2) 評価のプロセス・視点・方法	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5～ 15	ヘンダー ソン看護 論に基づ く看護過 程の展開	ヘンダーソン看護論の主要概念を理解する 基本的看護の構成要素(14項目)について、その内容と意味を理解する 基本的欲求に影響する常在条件とは何か理解する 基本的欲求を変容させる病理的状态とは何か理解する 基本的欲求の充足・未充足を判断する 3側面(体力・意思・知識)とは何か理解する 基本的欲求の視点で一連の看護過程が展開されていることを理解する 回復期にある対象に必要な看護を看護過程の展開を通して考えることができる	2	1. ヘンダーソン看護論の概念枠組み 1) 人間 2) 環境 3) 健康 4) 看護 2. ヘンダーソンによる看護の目的 3. 基本的看護の構成要素 14項目 1) 基本的欲求の充足した状態 2) 基本的欲求の未充足状態 3) アセスメントの視点	講義 ワーク シート
			4	4. ヘンダーソン看護論に基づく看護過程展開の実際 1) 事例紹介 経過別: 人工膝関節全置換術の回復期 事例: 変形性膝関節症(50歳代・女性) 2) 看護過程展開に必要な事前課題学習 3) アセスメント (1) 情報収集と情報整理 ①常在条件 ②病理的状态 ③基本的看護の構成要素(14項目) ・主観的データ(S情報) ・客観的データ(O情報) ・アセスメントガイドの活用	講義 ワーク シート
			4	(2) 情報の分析・解釈 ①充足・未充足の判断 ②未充足の原因・誘因の明確化 ・体力・意思・意識の3側面に視点を置いたアセスメント	講義 ワーク シート
			4	4) 全体像(関連図) 関連図の作成	講義 グループ ワーク
			2	5) 看護課題の明確化 6) 優先順位の決定	講義 ワーク シート
			4	7) 看護計画の立案 (1) 目標の設定 ・看護目標 ・期待される結果 (2) 具体策の立案 8) 実施と記録 (1) 実施のプロセス (2) 記録の方法	講義 ワーク シート 協同学習

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			2	9) 評価 (1)評価のプロセス・視点・方法	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験・課題学習で評価する	

<事前・事後課題> その都度提示しますので期限までに個人学習を行う

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
リハビリテーション	1	15	1年後期	富樫英則（○）
科目のねらい リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける				
教科書： 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100% 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 各看護学に活用できる内容として講義をします 介助演習もします				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	リハビリテーションの定義と概念	2	1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーションの対象と制度	講義
	疾病・障がい・生活機能の分類		1. 障害者の分類と構造 国際疾病分類(ICD) 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF) 客観的障害と主観的障害	
2	リハビリテーションの分類	2	1. 医学的リハビリテーション 2. 教育的リハビリテーション 3. 職業的リハビリテーション 4. 社会的リハビリテーション	講義
	リハビリテーション医療の提供		1. リハビリテーション医療システムとチーム医療 連携職種 他職種連携のあり方	
3	運動器系の障害とリハビリテーション	2	1. 廃用症候群を防ぐには 2. 積極的リハビリテーションプログラム 3. 運動の種類	講義 プレゼンテーション
4	検査手技	2	1. 筋萎縮の比較 2.MMT 3.筋肉増強の3大条件 4.アンダーソン改定基準 5.関節可動域 6.ADL評価	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
5	中枢神経系の障害と リハビリテーション	2	1. 中枢神経系麻痺の診方 2. 嚥下・言語障害のリハビリテーション	講義
6	呼吸・循環器系と リハビリテーション	2	1. 虚血性心疾患患者のリハビリテーション 2. 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション	講義
7	トランスファーの 介助演習	3	1. 車椅子からベット ベットから車椅子 2. 他動的関節可動域運動	演習 (実技)
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
フィジカルアセスメント技術	1	30	1年後期	成田淳人(○) 藤原未央(○)
科目目的：ヘルスアセスメントに必要とされる知識・技術・態度を身につける 目標： 1. 視診、触診、打診、聴診の基本的技法を習得する 2. バイタルサインの意義、測定方法を習得し、アセスメントの視点が理解できる 3. 標準的な身体計測の方法を学ぶ 4. 全身の系統別なフィジカルイグザミネーションの実践を学ぶ				
教科書：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術I 医学書院 看護技術プラクティス 学研 第4版				
評価方法：筆記試験 藤原70%（小テスト20%） 成田30%（小テスト10%） 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方： 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います（反転授業） 2. 授業は事前課題→講義→学内実習→振り返り（リフレクション）→事後課題の流れで進めていきます 3. 各授業のはじめに前回講義範囲の小テストを行い、学習状況を確認しながら授業を進めていきます 4. 事例を通して、フィジカルアセスメントの実践の展開を学習していきます				
単元：アセスメントの意義・臨床判断・フィジカルアセスメント技術			担当講師：藤原未央	
単元：身体各部の計測 バイタルサイン測定とアセスメント 学内実習			担当講師：成田淳人	

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意義と目的を理解する	2	1.ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意義・目的 1) 看護師が関わる2つの「生」 2) フィジカルアセスメントにおける情報収集 2. フィジカルアセスメントの進め方 1) フィジカルアセスメントの流れ 2) 安全・安楽・正確に実施するための条件	講義
2	フィジカルイグザミネーション	フィジカルイグザミネーション技術の基礎を理解する	2	1.全体の概観 1)視診の技術 2)触診の技術 3)聴診の技術 4)打診の技術	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3	臨床判断	臨床判断とは何かを理解する	2	1.臨床判断と看護過程の関連性 2.臨床判断モデル 1) 気づき・解釈・反応・省察 2) 気づきのトレーニング (DVD)	講義 グループ ワーク
4 5 6 7 8 9	フィジカルアセスメント技術	系統別フィジカルアセスメントの実際を理解する	12	1.呼吸器系のフィジカルアセスメント 2.循環器系のフィジカルアセスメント 3.腹部・消化器系のフィジカルアセスメント 4.筋・骨格系のフィジカルアセスメント 5.脳・神経系のフィジカルアセスメント 6.頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント 7.乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	講義
10			2	1.事例で学ぶフィジカルアセスメント 1) 呼吸困難 (1) 内容・方法と根拠・留意点 ①視診 ②触診 ③聴診 ④打診	講義 グループ ワーク
11	身体各部の計測演習	身体計測の目的と計測方法が理解できる	2	1.各計測の目的と留意事項 1) 計測の主な目的 2) 計測を行うにあたっての留意点 (1) 計測器具の留意点 (2) 計測環境を整える (3) 計測時の条件 (4) 対象の安全、計測結果の活用 (5) 記録・守秘義務 2.計測の実際 1)身長の計測 2)体重の計測 3)腹囲の計測 4)胸囲の計測 5)視力測定	学内実習

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
12	バイタルサイン測定とアセスメント	バイタルサイン測定の方法とアセスメントの基礎知識を習得する	2	1. 小テスト 2. 事前課題学習内容の確認 1) バイタルサインを観察する意義 2) バイタルサインの変動因子と個体差 3) バイタルサインの基礎知識と測定の実際 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識 3. 学内実習方法の説明 (事例) 呼吸困難のある対象 (実施項目) フィジカルイグザミネーションの実際アセスメントと報告	講義
13	フィジカルアセスメントの実際	バイタルサインの観察方法を習得する 身体診査の方法を習得する 得られた情報に基づきアセスメントを行い報告する	2	1. ジグソー学習 1) 専門家育成 (1) 体温・脈拍・呼吸の測定 (2) 血圧の測定 (3) 胸郭の触診・呼吸音の聴診 (4) 腹部の聴診・打診・触診 2) チーム練習 2. 事例に基づいたシミュレーションの実施 1) デモンストレーション (1) バイタルサイン測定の実施 ① 体温の測定方法とアセスメント ② 脈拍の測定方法とアセスメント ③ 呼吸の観察方法とアセスメント ④ 血圧の測定方法とアセスメント (2) 身体診査の実際 ① 胸郭の動きを触診 呼吸音の聴診 ② 腸蠕動音の聴診 腹部の打診・触診 (3) 問診・観察・測定値から得た情報を分析して、内容を報告する 2) デブリーフィング	学内実習 ジグソー学習
14			2	1. 技術評価	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
15			2	1. 全体のまとめ 1) グループリフレクション	協同学習
単位修得認定試験			1	筆記試験 小テスト	

事前課題	1. フィジカルアセスメント技術 1) フィジカルアセスメント技術に関する基礎知識（ワークシート） 2. バイタルサイン測定とアセスメント 1) バイタルサイン測定に関する基礎知識（ワークシート） 2) 教科書・看護技術プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認 3) 看護技術カードの作成
事後課題	1. リフレクションシートの作成